

のりと 祝詞と讃美歌



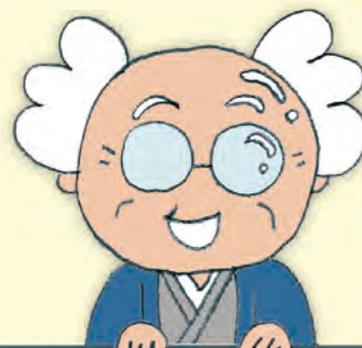
大本讃美歌

大本讃美歌は聖師さまが作られたお歌で、七五長の長歌と、五七五七七の短歌とがあります。これらのお歌は、大本の二大教典のひとつ『靈界物語』の第60・61・62巻に集録されている讃美歌の中から選ばれたものです。讃美歌には奉唱するための節がありますので、慣れないうちは、先輩に合わせて奉唱すると良いでしょう。



祝詞を置く時は

「おほものりと」や「大本讃美歌」は神さまに申し上げる言葉が書かれた大切なものですから、畳の上などに直接置かず、祝詞の袋があればその上に、なければ清潔なハンカチを敷いて、その上に置くようにしましょう。



世界を清める祝詞

体を作り、保つために、私たちが毎日食事をするように、魂にも、元気で活動するための食事が必要です。清らかな言葉で奏上する祝詞は、私たちの魂にとって、なによりのごちそうとなります。すがすがしい祝詞を奏上することで、私たちの心はどんどん清らかに、元気になります。

清らかな祝詞の言霊は、自分の心だけでなく、周囲の空間に響きわたり、世界中を、ひいては目に見えない世界をも清めていく力があります。また、人々の恨みや憎しみなどの悪い心をおだやかにします。祝詞奏上によって世界の人々の心がなごみ、互いにゆるし合い、思いやることのできるようになれば、多くの争い、災いも少なくなっていくのではないのでしょうか。一人でも多くの人が祝詞を奏上して、世界中が、清らかな言霊でいっぱいになるといいですね。



<連絡先>

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



大本では、神さまにお参りする時、単に礼をしたり、拍手（かしわ手）を打ったりするだけでなく、「祝詞」や「讃美歌」を奏げます。祝詞と讃美歌には、世の中を清めるすごいパワーがあります。今回はその祝詞（「おほものりと」と「大本讃美歌」）について紹介します。まずはその祝詞や讃美歌の元となる「言葉」について注目してみましょう。



言葉に宿る力

当たり前ですが、祝詞も讚美歌も言葉でできています。私たちは、清らかな言葉を聞くと気持ちが良いくなり、きたない言葉を聞くと不愉快になるものです。言葉は、声に出すことによって、不思議な力を發揮するのです。声は、ころの枝(え)とも言われるように、その人の心を表すものでもあります。

農家の人の中には「声がけは肥がけ」と言って、毎日田んぼを見回り、稲をわが子のように思い、声をかけて世話をする方がいます。そうすることで、よりおいしいお米が作られるのだそうです。まさに声が肥料になるのですね。いったい、どうしてでしょうか？



それは、言葉には宿る人の思いにより、魂が宿るからなのです。

この魂がこめられた言葉を「言葉」といいます。私たちが普段口に出している言葉にも、魂が宿っているのです。言葉にこめられる魂を清らかにするためにも、私たちは清らかな心を持ちつつ、つとめて気持ちの良い言葉を使うようにしなければなりません。

祝詞や讚美歌を奏上する時には、一つひとつの言葉に魂が宿っていることを意識して、「言葉」という「玉」「宝物」を神さまにささげるつもりで奏上しましょう。

「祝詞」とは

祝詞は「祝う詞」と書きますね。「祝う」とは、一般的に「めでたいこと、うれしいことを喜び、祝福すること」と言われています。

「祝」という漢字は「示(しめすへん)」に「兄」と書きます。「示」は神さまや祭壇をあらわし、「兄」は口と人を合わせたものです。

つまり「祝」は、人が神さまに向かって申し上げる姿をあらわしているのです。また、「詞」は言葉を意味します。

ですから「祝詞」は、神さまと人を口でつなぐ言葉のことなのです。

祝詞のはじまりは、神話の時代にまでさかのぼります。

太古の昔、天照大御神さまが岩戸にお隠れになり、この世が暗闇となった神話を知っていますか？

その時、天照大神さまが岩戸から出てこられるようにと、天之児屋根命が岩戸の前で奏上されたものが、祝詞のはじまりといわれています。

そのころの祝詞は神代の言葉でできていて、後になって今のような言葉や文字になおされたそうです。



祝詞には、ご守護をお願いするもの、感謝を申し上げるもの、はらい清めをお願いするものなど、いくつかの種類があります。

次のページで、日常、神さまにお参りする時に使う、「おほもとのり」とおさめられている祝詞について紹介します。

おほもとのり

天津祝詞…宇宙間の一切をはらい清め、その働きを整える祝詞。この祝詞は、一般の神社で使われている「裸祓の詞」とよく似ています。ただし、聖師さま(大本教祖・出口王仁三郎)の加筆修正によって大本独自のものとなっています。

神言…宇宙をはじめ、地球上の国家社会、一身一家にいたるまで、罪やけがれをはらい清められますようお願い申し上げます。この祝詞も一般の神社で使われている「大祓祝詞」と似ていますが、聖師さまが大本の教えにもとづいて加筆修正されています。聖師さまは「天津祝詞も、神言も太古の祝詞の姿にもどした」とおっしゃっています。

感謝祈願詞…神さまに感謝と祈願を申し上げる祝詞。聖師さまが作られた祝詞で、人としての心のもち方や生活のあり方などが示されています。

日拝詞…日々の祈りの祝詞。礼拝の際、神言や感謝祈願詞に代えて上げられる場合もあります。

祖霊拝詞…霊界に帰られたご先祖の幸せを祈る祝詞。聖師さまが作られました。

ご神号…神さまのお名前を申し上げ、感謝とご守護をお祈りします。

惟神靈幸倍ませ…「神さまのみ心のままにお導きください」という意味です。

祝



祝詞や讚美歌を奏げる時は

祝詞や讚美歌は、一人で奏上する時もあれば、何人かで奏上する時など、代表の人に続いて奏上することもあります。代表となる人のことを先達といえます。

先達に続いて奏上する時は、次の点に注意しましょう。

- 祝詞の場合は、〃、〃、から、讚美歌の場合は一節後に、先達に続いて斉唱します
- 先達が奏上する早さや声の高さはそろえましょう
- 息継ぎは先達に合わせてません

祝詞が途中で途切れることなく、水が流れるように奏上しましょう。

